

新たな防災拠点施設

白糠消防庁舎「釧路市西消防署白糠支署」

移転改築した白糠消防庁舎（釧路市西消防署白糠支署）が完成し、10月1日から供用を開始しています。

東1条南3丁目2番地20の旧消防庁舎は1970年（昭和45年）に建設。老朽化や一帯が海拔2・9mと津波浸水区域にあることから移転しました。

新庁舎の建設地は西1条北4丁目2番地1で、海拔8・1mと津波のリスクが低く、市街地にも近い場所にあります。

建物は鉄筋コンクリート造（RC造）、3階建て、延べ床面積2121・22㎡で、31台分の駐車場（南側5台、西側26台）やヘリポートが設けられています。

新庁舎は再生可能エネルギーである地中熱を利用した「地中熱ヒートポンプ」と、太陽光を利用した「太陽光発電」を整備し、二酸化炭素排出量を削減した環境に優しい施設となっています。

●地中熱ヒートポンプ冷暖房設備

地中温度は、季節に関わらずほぼ安定していることから、この安定した熱エネルギーを利用。深度100mまで掘り下げた53本の採熱管に不凍液を循環させ、ヒートポンプで熱交換させます。冷暖房に使われる電力削減に効果的です。



旧消防庁舎



上空から見た消防庁舎

●太陽光発電設備

屋上に92枚の太陽光発電パネルを設置。年間34863キロワットの発電能力を有し、災害時には避難者の電力として活用できます。